

今月の



隣に伝えたい 新たな言葉と概念

【リカバリー， ストレngthモデル】

英 Recovery, The Strengths Model

和 リカバリー（回復）， ストレngth（強み）モデル

パトリア・ディーガンはリカバリーを以下のように定義している。「リカバリーは、一つの過程、生活の仕方、姿勢、日々の課題への取り組み方である。それは、完全な直線的過程ではない。ときに、私たちの進路は気まぐれで、私たちはたじろぎ、後ずさりし、取り直し、そして再出発するのだ。必要なのは障害に立ち向かうことであり、新たな価値ある一貫性の感覚、障害のなかで、あるいはそれを越えた目的を回復させることである。熱望（aspiration）は、意義ある貢献ができる地域で生活し、仕事をし、人を愛することである」。

チャールズ・A・ラップらは、エンパワーメントモデルをベースに、ケースマネジメント領域において新たな実践モデルを生み出した。それが「ストレngthモデル」である。ストレngthモデルでは、すべての人は目標や才能や自信を有しており、また、すべての環境には、資源や人材や機会が内在しているとみなす。ストレngthモデルは、新たな認識を提供する。それは、私たちが問題よりも可能性を、強制でなく選択を、病気よりもむしろ健康を見るようにする。それらを見ることができれば、成果が得られよう。ストレngthモデル実践の目的は、人々のリカバリー、改善、生活の質を変えることを支援することである。それは、環境と個人両面にわたる幅広い資源を探り出し、確保し、支えることによってもたらされる。

ストレngthモデルの6原則は以下の通りである。

- 原則1 精神障害者はリカバリーし、生活を改善し高めることができる
- 原則2 焦点は欠陥でなく個人のストレngthである
- 原則3 地域は資源のオアシスとしてとらえる
- 原則4 クライアントこそが支援過程の監督者である
- 原則5 ワーカーとクライアントの関係性が根本であり本質である
- 原則6 私たちの仕事の主要な場所は地域である

参考図書

チャールズ・A・ラップ/リチャード・J・ゴスチャ著、田中英樹監訳。ストレngthモデル リカバリー志向の精神保健福祉サービス [第3版]。東京；金剛出版，2014。

（国立病院機構琉球病院 福治康秀）
本誌20pに記載